

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第3回）
開催日時	平成30年2月22日（木）午前10時00分から午前11時30分
開催場所	西東京市保谷庁舎 東分庁舎地下会議室
出席者	（委員）松平会長・中村副会長・加登谷委員・奥田委員・小林委員・伊藤委員・横張委員・新出委員・福田委員・押見委員・鈴木委員・金澤委員・緒方委員・金木委員・清水委員・皆川委員 （事務局）等々力学校運営課長・近藤・石部・越川
議題等	〈議題〉 1 親子給食について～田無小学校・田無第三中学校の親子給食の見直しについて～ 2 その他
会議資料の名称	1 田無第三中学校の親校になる可能性のある小学校比較表
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・学校運営課長挨拶 出席委員15名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 *1名遅参で結果16名 前回会議録は、事前配付の資料に修正を加え、配付物のとおりとするの確認 ・会長挨拶</p> <p>議題1 親子給食について ～田無小学校・田無第三中学校の親子給食の見直しについて～</p> <p>○会長 事務局から説明を求める。</p> <p>○事務局 現在、三中は田無小と親子給食を実施しているが、田無小で両校の給食を作ることが困難になることが予想され、両校の親子給食の見直しが必要になっている。 親子関係の見直しの必要性については、田無小の児童数の将来推計が向こう6年程度でピークを迎えることが要因で、平成29年度事業では校舎の増築工事も行った。来年度は普通学級で2クラス増が予想されており、その後もコンスタントにクラス増が想定される。これに対し、三中は生徒数の増は見込まれていないが、田無小の調理室の大きさから見て、両校の児童・生徒数に似合った熱風消毒保管庫の増設、大型の調理器具では提供数に応じたスチームコンベクションオープンや炊飯器等の増設が難しく、現有機器で親子給食を続けられるのは、平成33年度末が限度と見込んでおり、親校機能を解消しないと田無小自らの給食提供に支障が出る。</p> <p>次に、田無小から分離した後の三中の完全給食の継続については、親子方式を継続するのか、自校式にするのかになる。西東京市の中学校給食は、親子方式を選択することで全校の実施が決まったこともあり、親子方式の継続は、この審議会でも都度確認している。現状で、三中に自校式の給食室を新設するという選択は財政面からも現実的ではなく、教育委員会としては、親校の変更を提案したいと考えた。</p> <p>新しい親校の候補を提案する前に、改めて親子校の組み合わせの考え方を説明したい。中学校給食検討委員会最終報告書（平成20年11月）によれば、①概ね1,000食程度を基準として、それ以下の合計食数となる組み合わせが基本。②配送に要する時間は概</p>	

ね10分以内とし、距離的に隣接する小・中学校が望ましい。③調理業務を民間委託で行っている。④施設改修、調理機器設備の入れ替えが比較的容易にすむ点や給食調理室の面積を考慮して決定すること、となっている。

次に、三中の新たな親校の模索が必要になるが、可能性のある小学校は①中原小②けやき小③住吉小④谷戸小の4校と考えている。各校の比較の詳細については資料1のとおりであるが、この4校を候補にあげた理由は、ひばり中と中原小の建替え計画が関係している。新中原小は、平成32年の三学期に引越し開校、新ひばり中が平成33年の夏に引越し、自校式給食に移行するために、住吉小との親子関係が解消する。このタイミングが、田無小の親校の限界点と一致したため、この2校に加えて、三中からの距離を考慮した2校を検討材料とした。

それぞれの理由であるが、①中原小は建替え新築のため、設計段階から親校としての機能を加えることが可能である。②けやき小は三中の学区であり、距離的に最も近い小学校で、そこに新しく親校の機能を付加する案である。③住吉小はひばり中の自校式への独立に伴い、これまでの親校としての機能を活用できるためである。④谷戸小は親校機能を持つ小学校の中で、三中に最も隣接することが理由になっている。

そのような中、新ひばり中が現校舎位置からかなり西に移転するため、ひばり中と二中の新区域の検証が必要になり、2つの案が提示され、現在協議中である。今回は三中の問題だが、この両校の新しい学区も、最終的な親校の決定には重要なポイントになるものと考えた。

本日の提案であるが、教育委員会としては、既存施設・設備を有効活用することを検討のポイントにしつつ、4つの候補校から絞り込むことにした。

候補の4校それぞれの具体的な検討結果だが、①中原小は、新校舎の給食室のため、当初から親校としての設計が可能である点は大きなメリットである反面、中原小単独の給食室に比較すると部屋の大きさ、大型備品を新しく用意する必要があり、建築コストはその分増額になること、中原小と三中を合わせると1,150食を超える大規模校となること、また住吉小の設備が余剰となることから考えると、中原小を親校にする案は現実的でない。

②けやき小については、けやき小を親校とするための施設・備品の整備が必要となる一方で、住吉小の設備が余剰になることを考えると、けやき小を親校にする案も現実的でない。

以上2案に比べ、③住吉小については、三中との距離が4校中最も遠く、配送委託料に影響が出るものの、既存の設備を有効活用できる。また、④谷戸小についてだが、唯一2校同時に親校の変更が必要になるため、調整を慎重に行う必要はあるものの、既存の設備を有効活用できる、という大きなメリットを感じている。教育委員会の検討に際しては、既存施設・設備の有効活用をポイントとしており、そのことから考えると、現時点においては、住吉小もしくは谷戸小を三中の親校の最有力候補として考えている。現在、ひばり中の平成33年夏の移転に向け、通学区域の見直しを検討しているが、その決定と、当該校の意見を踏まえて最終的に新しい親校を決定し、学校給食運営審議会にも報告したい。

○会長 説明に対しての質問を受ける。

○委員 住吉小、谷戸小ともに三中に進学する児童はいないし、また学区が決まれば新しい親校がわかるという説明だが、親子給食の学校選択の際の条件として上がっていた、隣接する学区の小学校から中学校へ運ぶということは、どこまで重く考えるべきなのか。

○事務局 西東京の学区はひとつの小学校から複数の中学校へ進学するケースが多くあるため、学区だけにこだわっていると親校の選択ができなくなってしまう。理想は、多くの子供が進学する中学校に給食を運搬する親子関係であり、今まで食べていた給食をそのまま食べられるということであるが、それだけを重視することはできない。望ましくはあるが、絶対条件ではないというところだ。

- 委員 親子給食は小・中学校で組み合わせているので、それが大前提とは思いますが、新ひばり中から三中へ運ぶという検討はされたのか。
- 事務局 新ひばり中と三中の親子給食は、新ひばり中の給食室設置の際に案として出たが、中学校の給食提供量は小学校より多いため、中学校同士の親子になると、新ひばり中の給食室を大きくしないといけなくなるなどから選択しなかった経緯がある。
- 委員 西東京市の廃校になった小学校の給食施設を利用することはできないのか。
- 事務局 学校を廃校にした後に給食施設のみ使おうとすると、給食工場の扱いになり、都市計画上の問題から利用はできないとの結論になった。なお、旧泉小学校は既に取り壊されている。
- 委員 コストについて言及しているが、住吉小と谷戸小を親校とした場合の配送料の増額は、けやき小を再整備するための8,380万円という金額と比べてどうなのか。
- 事務局 住吉小から三中に配送することになれば、ひばり中よりも距離が遠くなるので、配送委託料は今よりも上がるのは事実であるが、けやき小学校を再整備する場合のように何千万円という単位にはならない。ただし、配送委託料はランニングコストのため、最初は僅かな増であっても、長い期間には大きな負担になるので、注視しておく必要がある。
- 委員 初期投資とランニングコストを単純に比較できないが、コストのことを上げるのならば、もっと具体的な資料があるといろいろと考えられると思う。
- 事務局 今回の審議を受けて教育委員会で方針を決定した後に、皆様に結果を報告するが、その際にコストについてはきちんと示していきたい。
- 委員 けやき小には親校の機能が無いとの説明だったが、親校の機能とはどういうものを指しているのか、また親子調理業務は民間委託が良いとのことだが、そう決めたのはなぜか。
- 事務局 調理機器だと中学校が使用する食器や食缶なども小学校で保管するため、小・中学校分を入れられる熱風消毒保管庫が必要である。また大人数分を調理できる回転釜や炊飯器が必要であり、それらのことを親校としての機能と考えている。
また、民間委託については、親子給食校は単独校と比べて出勤時間が早く、市の調理員の勤務時間内では納まりきらなくなってしまう。そのため契約に基づき人員や勤務時間を調整できる民間委託が適当であるということだ。
- 委員 けやき小は新しい施設だと聞いているが、そういった機器を入れられるスペースがないということか。
- 事務局 スペースがないということではないが、現在けやき小はドライシステムで運用しており、けやき小の食数に合わせたドライシステムの機器が入っている状況である。そこに新たに大きな機器を購入して入れるためには、多額の整備費用が必要になる。
- 委員 谷戸小を親校に決定した場合に、現在谷戸小を親校としている二中の新しい親校については検討しているのか。
- 事務局 現在協議中の新ひばり中と二中の学区域の問題次第だが、谷戸小が三中の親校になった場合には、二中の新しい親校は住吉小になろうかと思う。
- 委員 谷戸小で2校分作るというのはできないのか。
- 事務局 それは無理である。
- 委員 児童・生徒数は新学区域が決定しないとまだ不明である中で、住吉小と谷戸小は親校としての機能を持っているということだが、それぞれ同程度の規模をまかなえるという意味合いと捉えて良いのか。
- 事務局 そういうことである。
- 委員 今回の検討の資料では4校だが、芝久保小は検討に上がらなかったのか。
- 事務局 芝久保小は現在親子給食でないために、親校とするための整備をしなければ

ならない点と、配送トラックが入るスペースもないため、検討から外れている状況である。

- 会長 ここからは、教育委員会の提案に対して意見を述べてほしい。
- 委員 住吉小か谷戸小かということになっているが、私はどちらも決められない。現場で働く人に無理をさせることだと、安全性にもリスクが生じるのではないかと思う。中原小を親校にすることは現実的ではないとの説明だったが、まだ設計段階であれば、給食室を大きくして親子給食ができる施設にするべきではないかと思う。
- 委員 現状では、住吉小と谷戸小どちらでも可能かと思う。
- 委員 運ぶ距離としては、住吉小が親校になると配送料が増額になるということだったので、谷戸小から三中へ運び、住吉小から二中へ運ぶという案が妥当だと思う。
- 委員 住吉小は谷戸小と比べてかなり施設が狭い印象である。ひばり中との親子関係を解消した後も親校を継続するのであれば、無理せずできるように検討していただければと思う。
- 委員 現在のひばり中は生徒数の多い学校である。それであれば、ひばり中でない中学校との親子給食になれば、住吉小は少し余裕ができるのではないかと思う。
- 委員 現在の二中、三中、及びひばり中の生徒数はどれくらいなのか。
- 事務局 平成29年5月1日現在で、二中が370人、三中が333人、ひばり中が569人であり、ひばり中は生徒数が一番多い学校である。新学区域の決定によって生徒数は変わると思うが、こちらも調整を行っている状況である。
- 委員 ひばり中の学区域が変わると、児童・生徒数も変動してくると思うが、親子校の組み合わせを考えるに当たりその推計の資料がないと検討しづらいと感じる。
- 事務局 本日この場で三中の親校を決めるものではないが、最終決定をする際には、本日の意見を踏まえて検討したい。
- 会長 他に意見は無いか。
教育委員会からは、住吉小と谷戸小どちらかで決定したいという説明で、それに対して委員から質疑・意見を受けた。この後は、新学区域も決定すると思うので、本日出された意見を参考に、財政面を考慮しつつ、児童・生徒への影響が最小限となるような配慮をして親校を決定していただければと思う。
- 事務局 本日皆様にご理解いただきたい点は、既存施設の有効活用ということである。中学校給食を途絶えさせないということが最も大切で、そのために西東京市では親子給食の継続がポイントだと考えている。これが、今回の三中の親校を見直すということの根拠である。親子給食の継続については、中学校の建替え等がある場合には、給食運営審議会で議論していくというのが教育委員会の考えである。
本日いただいた意見は十分に配慮し、新学区域が決まった後に、三中の親校の選択について、今一度検討していきたい。
新中原小については、できれば今年度中には設計に親子給食の機能を入れるかどうかを決めたい現状にある。また、新中原小は小学校側の児童数が多い学校になることが予想され、三中との親子を組むと1,150食を超えてしまうため無理があり、選択したくない組み合わせだと考えている。その点ご理解いただきたい。
- 副会長 親校をどこにするのかは、既存の設備の活用が無理のない選択だろうということが確認できた。最終決定は通学区域の決定によると思うが、通学区域が決定する時期はいつ頃になるのか。
- 学校運営課長 具体的な日付は申し上げられないが、近々に決定する予定である。
- 副会長 結果がわかり次第、審議会にも報告して欲しい。
- 会長 本日の審議での質問と意見には大きな反論はなく、提案のあった谷戸小か住吉小の2案を中心に今後の検討を進めていただきたいと思います。本日の議題は以上であるが、他に意見等がなければ、議題の1は終了する。

議題2 その他

- 副会長 前回の会議で提案した中学生の給食アンケート調査について、結果の公表はいつ頃になるか。
- 事務局 現在集計中である。自由記入欄へ多くの記述があったため、分析に時間を要している状況である。今年度中には集計を完了し、まとめ次第報告したい。
- 副会長 大変な仕事量になったと思うが、現場の声をしっかりと受け止めて、給食を大事にしながら今後の検討に活かしていきたいと思う。
- 会長 次回の会議予定を報告してほしい。
- 事務局 次回の開催は5月を予定している。

閉会

- 会長 本日の会議を散会する。